

01
目的

トッパングループは、従業員が心身ともに健康で、個性や能力を最大限に発揮することが、企業の発展につながると考えます。1900年の創業以来培ってきた「人間尊重」の基本理念に基づき取り組んでいる健康の保持・増進活動を前進させ、会社・労働組合・健康保険組合そして従業員とその家族が一体となって、健康づくりを推進していきます。さらには、当社の健康に関する様々な事業活動を通じて、世の中全ての人の健康づくりに資することで社会に貢献していきます。

02
課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題と効果



課題：①従業員のパフォーマンス向上

健康経営で解決したい経営上の課題	定年延長等、高齢者の就業においてこれまでと同様に高いパフォーマンスを発揮してもらう必要がある。また、高齢者に限らずD&Iの観点からも幅広い人材が個々の能力を最大限活かして事業活動を行うためにも、コンディションの維持・増進が求められる。
健康経営の実施により期待する効果	従業員が当社の推進する「健康」状態、つまり積極的に挑戦する「やる気」、心身ともに健康で、明るくいいきと活力に満ちた「元気」、そして、真剣に取り組む、最後までやり遂げる「本気」という3つの「気」を持って仕事に取り組める状態を維持することが企業価値の創造につながる。また、従業員だけでなくその家族においても健康を維持・増進するために被扶養者の健診などについて引き続き80%以上の受診率を目指す。

自社従業員(組織)の課題と目標



●重点課題1



⑬生活習慣病等の疾病リスクを持つ従業員への重症化予防の課題

課題内容	発症すると本人にとって負担が大きく、医療費増加への影響も大きい生活習慣病の重症化予防を行うため、糖尿病や高血圧症対象者を対象に、腎症等の合併症や人工透析を防ぐ重症化予防が必要。人生100年70歳現役時代となり、長く能力を発揮し、働き続けることを可能にするうえでも重要な課題。	
目標	重症化予防の通院確認	
	数値	年度
	目標値	100.0%
		2030

●重点課題2



⑩生活習慣改善(運動・睡眠・食生活等)に関する従業員の課題

課題内容	長引くコロナ禍において在宅勤務やテレワークなどを併用する新しい働き方が定着し、生産性の向上が図られる一方、通勤や出勤時に必ず実施しているラジオ体操などを行う機会が減ってしまうことで、運動不足、また転倒による労働災害の増加傾向となった事、また、在宅勤務により、仕事とプライベートの気持ちの切り替えが難しくなる、仲間との雑談が減るなどの心理面での影響の声も寄せられていた事などを踏まえ、対策が急務となっていた。	
目標	①ラジオ体操イベント「マジのラジオ体操オンライン」を通じて運動習慣の定着と在宅ワークでの運動不足解消(実績値および目標値は参加率) ②ウォーキングアプリ「aruku&」の活用(実績値および目標値はイベント実施回数) ③「オンラインアートサロン」の活用による心のリフレッシュ(実績値および目標値は実施拠点数)	
	数値	年度
	目標値	①85.0% ②20回 ③10拠点
		2025

経営上の課題に対する健康経営の成果

従業員及びその家族におけるヘルスリテラシー向上により、特に家族(被扶養者)の健康診断については80%以上が受診しており、病気の早期発見や重症化予防に寄与している。最終目標である100%受診に向け、引き続き健保組合と連携したコラボヘルスにより従業員とその家族の健康維持・増進に努める。

04
健康経営
の成果03
施策・実績

健康経営の取り組み

●施策内容<重点課題1>



重症化予防の通院確認として、健保組合と全国事業所の総務が連携し、対象従業員への声掛け、ヒアリングを実施。通院できていない場合には更に積極的な声掛け、メール連絡といった地道なアプローチにより、実施率100%を目指している

健康診断再検査受診率の向上

	数値	年度
取組前実績値	100.0%	2019
現在の実績値	100.0%	2020

具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	トッパングループ健康保険組合
提供元社名	(回答不要)
内容	診療所の看護師と事業所総務間で対象者リストの確認や声掛けを行うなどの密接な連携を実施、強化
導入時期	—
選択理由	(回答不要)
評価(定量・定性)	●全国35か所の診療所における看護師と総務間で安全衛生委員会(1回/月)や個別のヒアリングを実施することで常に状況を把握し、個別アプローチを漏れなく実施することができている。 ●健保組合とのコラボヘルスは当社の強みとしている部分であり、実施率100%という数字にその連携の強固さが反映されている。引き続き関係を強化しながら重症化予防対策に努める。

具体的な実践内容3

分類	外部サービス
名称	臨床美術
提供元社名	株式会社芸術造形研究所
内容	アートセラピーの手法である「臨床美術」を取り入れた「オンラインアートサロン」の実施
導入時期	2020年
選択理由	●効果 ●実績 ●評判
評価(定量・定性)	●従来、社員向けに実施していたアートサロンでは拠点ごとの実施だったが、オンライン化により、1つの講座で都内の4拠点をまとめて合同実施が実現。勤務地の枠組みを超えてアートサロンを通じた交流が可能となった。 ●臨床美術については、これまで、社員のリフレッシュプログラムとしての定期講座のほか、新入社員研修、育児休業中の社員向けイベント、家族向けイベントなどに活用し、毎回高評価を受けていたが、今回、オンラインアートサロンを実施することで、上記のように勤務地の枠を超えた社員同士の交流や、在宅勤務やテレワークにおいても心のリフレッシュの機会提供が可能となった。コロナ禍により集合型のアートサロンが開催できなくなる中、いち早くオンライン化に取り組み、実施可能なアートプログラムも増加しており、ニューノーマルな活用の可能性を感じる。

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	運動機会の提供を心掛けているものの、近年転倒労災が多い傾向となっており、引き続き運動不足解消や各自の健康状態把握に効果的な対策の実施を行う必要がある。
今後取り組みたい施策の課題	全社規模での喫煙率低下に向けた取り組み。各事業所にて実施はされているものの、全社的な数値の改善には至っておらず、全社を巻き込んだ抜本的な対応が必要と考えている。

●施策内容<重点課題2>



社内でも特に在宅率が高く、デスクワークが中心な本社において「本気のラジオ体操オンライン」企画を実施。出社時に流れるラジオ体操を、在宅でも本気で取り組めるよう、健保組合に依頼してラジオ体操指導員によるレクチャー動画を作成し、展開。また強化期間を設け、期間中は事務局より毎日メール配信を行い、啓蒙を図った。

- ①ラジオ体操イベント「マジのラジオ体操オンライン」を通じて運動習慣の定着と在宅ワークでの運動不足解消(実績値および目標値は参加率)
- ②ウォーキングアプリ「aruku&」の活用(実績値および目標値はイベント実施回数)
- ③「オンラインアートサロン」の活用による心のリフレッシュ(実績値および目標値は実施拠点数)

	数値	年度
取組前実績値	①—% ②9回 ③—拠点	2020
現在の実績値	①50.0% ②12回 ③4拠点	2021

具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	トッパングループ健康保険組合
提供元社名	(回答不要)
内容	在宅勤務でもできる「ラジオ体操レクチャー動画」
導入時期	2021年12月
選択理由	(回答不要)
評価(定性・定量)	●出社時にのみ流れていたラジオ体操を在宅でも取り組めるように施策を実施。ラジオ体操指導員によるラジオ体操のポイント解説動画を毎日配信することで、在宅でもラジオ体操を実施することが可能となった。参加者のうち5割強の従業員が在宅でもラジオ体操を始めるきっかけとなったと回答。事前、事後で実施したフィジカルチェックでは、回答者のうち約3割が「改善した」と回答。 ●デスクワーク、かつ在宅比率の高い本社地区にて実施したが、アンケートでは参加者の8割強が、今後もラジオ体操を継続すると回答しており、運動習慣の定着が見られた。次回開催の要望も多く、2022年度においてもイベントの継続と拡大を検討している。

具体的な実践内容2

分類	外部サービス
名称	ウォーキングアプリ「aruku&」
提供元社名	株式会社ONE COMPATH
内容	スマホにアプリをダウンロードして、あとは歩くだけ！スマホの歩数計データを利用して簡単に社内ウォーキングイベントを開催できるサービス
導入時期	2018年
選択理由	●機能・性能 ●使いやすさ ●実績 ●サービス・製品の可能性
評価(定性・定量)	●aruku&を法人契約することで全国の事業所において本アプリを活用したウォーキングイベントが可能となり、コロナ禍において運動不足解消の観点からイベント実施数が12件に増加し、登録アカウント数も追加することで更なるイベント促進を図っている。 ●aruku&では企業ごとのイベントだけではなく、各企業・自治体などの登録団体を含めた全体イベントの実施や、社内イベントの景品サポートなど様々なサービスを展開しており、運動習慣定着に向けた取り組みの実現に寄与している。